

Wh 要素とゼロ範疇との間の隣接性について

La adyacencia que se impone entre el sintagma-Cu y la categoría X⁰ *)

石岡 精三

Seizo ISHIOKA

0. はじめに

(1) が示すように、Wh 要素と定動詞の間に接語左方転移 (CLLD: Clitic Left Dislocation) 要素が介在する派生は不適格である (主語 CLLD 要素と非主語 CLLD 要素にはそれぞれ、一重下線と二重下線が付される)。(2) で判明するように、A グループにおいて付加語 Wh 要素 (*por qué* 'why') と定動詞の間に主語 CLLD 要素と非主語 CLLD 要素が生起する。B グループでは、*por qué* と定動詞の間に生起するのは主語 CLLD 要素のみである。¹⁾ *por qué* が長距離移動する (3) においても、相違が観察される。B グループでは、*por qué* と定動詞の間に主語 CLLD 要素が生起可能である。A グループでは、主語 CLLD 要素だけでなく CLLD 要素一般の介在が排除される。(1) から (3) の異同は (4) としてまとめられる。

- (1) a.*¿A quién María invitó? 'Whom did María invite?' (Zubizarreta 1998: p.105, (11a))
b. ¿A quién invitó María? 'Whom did María invite?' (Zubizarreta 1998: p.105, (11b))
c.*¿Quién a Luis lo conoce? 'Who knows Luis?' (Escobar Álvarez 1995: p.135, (37a))

(2) A グループ (Zubizarreta 1998: p.105, (12a); Ron 1998: p.149, (197a))

- a.¿Por qué María no vino? 'Why didn't María come?'
b.¿Por qué a Miguel no lo invitaron a la fiesta? 'Why didn't they invite Miguel to the party?'

B グループ (Escobar Álvarez 1995: p.53, (77d); p.135, (36a))

- a.¿Por qué Juan quiere salir antes que los demás? 'Why does Juan want to leave before the rest?'
b.*¿Por qué a Luis lo conoce Juan? 'Why does Juan know Luis?'

(3) A グループ (Martín 2003: (25b))

- a.*¿[Por qué]_i Juan dice [que beberá cerveza e_i]? 'Why does Juan say that he will drink beer?'

B グループ (Escobar Álvarez 1995: p.64, (99))

- b.¿[Por qué]_i Juan ha dicho que Pedro ha asegurado [que María se fue e_i]?
Why has Juan said that Pedro has assured that Mary has left?'

(4) まとめ (IA グループの判断 / B グループの判断)

- a.[*/*] ¿A quién María invitó? 'Whom did María invite?'
b.[*/*] ¿Qué cosa a María le regalaron? 'What did they give to María?'
c.[^{OK}/^{OK}] ¿Por qué María no vino? 'Why didn't María come?'
d.[^{OK}/*] ¿Por qué a María le regalaron eso? 'Why did they give that to María?'
e.[*/^{OK}] ¿[Por qué]_i Juan dice [que beberá cerveza e_i]? 'Why does Juan say that he will drink beer?'

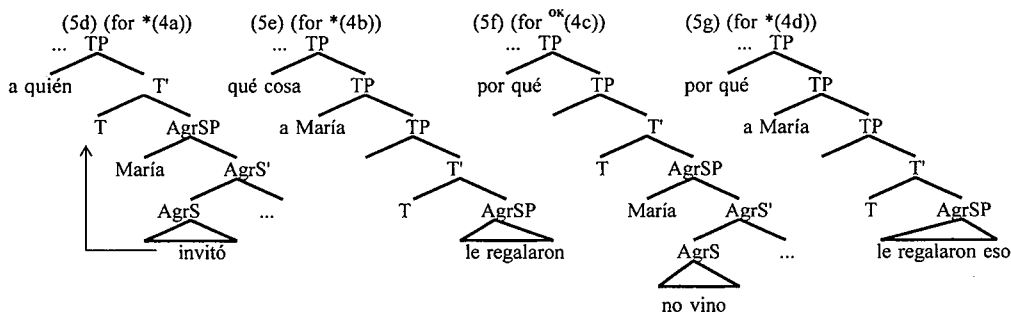
Zubizarreta (2001) に基づく本稿において、上で確認された異同を説明する論法を提示する。具体的に

は、Wh 要素と当該 Wh 要素がその先端部に生起するゼロ範疇との隣接条件 (Adjacency) に関するパラメータを想定する。本稿は以下のように構成される。第 1 節では、B グループの用例を説明する Escobar Álvarez (1995) の概略とその問題点を示す。次に、本稿が立脚する Zubizarreta (2001) が内包する問題点を指摘する。第 2 節では、本稿が想定する節構造に基づく仮説体系が (4) の異同だけでなく、他の用例における判断上の異同をも説明することを示す。結びを構成する第 3 節では、本稿の仮説体系に対して問題を引き起こすと思われる用例の検討とそれに対する打開策を提示する。

1. Escobar Álvarez (1995) と Zubizarreta (2001) の概略と問題点

B グループに属す Escobar Álvarez (1995) において最大範疇 XP への二重付加と Spec(X)における複数要素の生起が排除され、その主張は (5) として要約される。

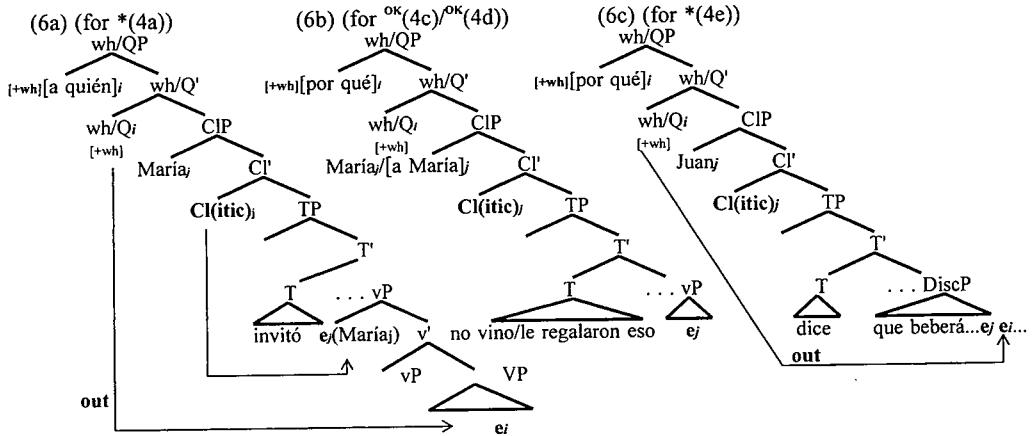
- (5) a. 節構造 [CP [TP [AgrSP [AgrOP [VP]]]]] において定動詞は AgrS に生成される。定動詞の左方に出現する主語要素 Spec(AgrS) の位置にあり、CLLD の適用を受ける要素は TP に左方付加した位置に生起する。
- b. 項 Wh 要素は Spec(T)へ移動する。付加語 Wh 要素は Spec(T), あるいは TP に左方付加した位置へ移動する。
- c. Spec(T) 位置に Focus 要素, あるいは Wh 要素が生起する派生において、定動詞は AgrS から T 位置へ移動する。



(4a) と (4b) の相違は、それぞれ派生構造 (5d) と (5e) によって説明される。項 Wh 要素 (*a quién*) が Spec(T)へ移動するため、定動詞はその Spec 位置に主語要素 (*María*) が生起する AgrS から T へ移動する。つまり、(4a) は生成不能となる。(5e) の派生構造に対応する (4b) は、TP への二重付加によって排除される。(4c) の適格性は、その派生構造 (5f) によって示される。(5f) において付加語 Wh 要素 (*por qué*) が TP に付加した位置に生起するため、定動詞は AgrS 位置に留まる。同様に、付加語 Wh 要素 (*por qué*) が長距離移動する (4e) の適格性が導出される。対応する派生構造 (5g) で示されるように、(4d) の非文性は TP への二重付加によって説明される。この Escobar Álvarez (1995) の論法は、A グループの用例としての (4d) と (4e) の文法性判断を説明できない点で問題を内包するものである。

A グループに属す Zubizarreta (2001) は (4a) の非文性を演算子束縛 (Operator Binding) に関する最小

原理 (Minimality) によって説明する。CLLD 要素がその先端部に生成され演算子として機能する CI の投射と、Wh 要素がその先端部へ移動し演算子として機能する Wh/Q の投射を想定する。その先端部に生起する主語要素 (*María*) と同一指標をもつ CI が vP 内部にある変項 (*ej*) を束縛する。Wh 要素 (*a quién*) と同一指標の関係になる wh/Q もまた、vP 内部にある変項を束縛することになる。



しかしながら、この wh/Q による束縛は最小原理によって排除される。これは、変項 (*ei*) を C 統御し、wh/Q を C 統御しない束縛要素 CI が介在するためである (CI の投射が生成されない (1b) ではこのような最小原理違反が起こらない)。対応する構造 (6b) で示されるように、(4c-d) は最小原理によって排除されることなく適格と予測される。その派生構造 (6c) が示すように、(4e) は最小原理によって排除される。Zubizarreta (2001) は A グループに対しては有効であるが、B グループの用例、特に (4d) と (4e) の用例に付与される判断を説明するものではない。

(7) が示すように、CLLD の適用においてもグループごとの相違が観察される。A グループでは、CLLD 要素の重複適用が一般的に許容される。B グループでは、この CLLD の重複適用は排除される。唯一許容される重複は [非主語 CLLD + 主語 CLLD] のみである (7e)。 (4) において確認された異同だけでなく、この CLLD に関する異同をも説明可能な論法が必要とされるであろう。

(7) A グループ (Fernández Soriano 1993: (46a); Olarrea 1996: p.90, (71a); p.90, (71b))

- a. A tu hermana, eso, no se lo digas. 'Don't say that to your sister.'
- b. Creo que Juan a María le dio un regalo. 'I think that John gave a present to María.'
- c. Creo que a María Juan le dio un regalo. 'I think that John gave a present to María.'

B グループ (Escobar Álvarez (personal communication (p.c.)): March 17, 2010; Escobar, Linda (=Álvarez) 1997: (34))

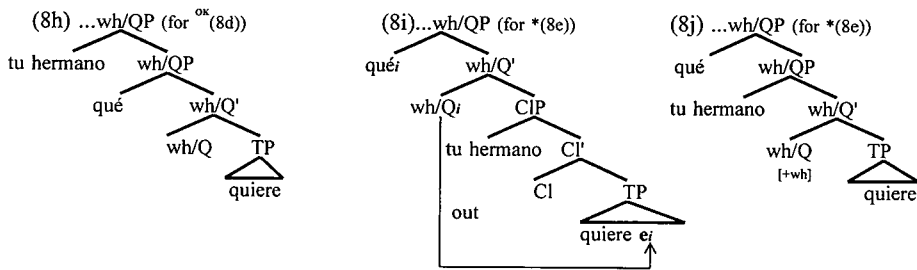
- d. *A tu hermana, eso, no se lo digas. 'Don't say that to your sister.'
- e. A María, yo la he invitado. 'María, I have invited.'

2. Wh 要素と Focus 要素に課される隣接条件 (Adjacency) と可視性仮説

本稿では独立節の構造として (8) を想定する。Hanging Topic Left Dislocation (HTLD) の適用を受

ける要素は Disc(ourse) の先端部に生起する (8c)。Force, wh/Q (そして CI) の先端部には CLLD の適用を受けた要素が生起する。主語要素も CLLD 適用を受ける。

- (8) a. [-wh] Clause: [Disc(ourse)P [ForceP [CI(itic)P [TP [...vP [VP ...]]]]]]
- b. [+wh] Clause: [DiscP [wh/QP [CI(itic)P[TP [...vP [VP ...]]]]]] (ForceP → wh/QP)
- c. [DiscP (En cuanto a) Juan [ForceP [CI(itic)P YO [TP no le diría nada a él]]]. (Escobar Álvarez 1995: p.82, (3a))
 'As for Juan, I wouldn't say anything to him.' (Hanging Topic Left Dislocation)
- d. ¿Tu hermano **qué** quiere? 'What does your brother want?' (Olarrea 1996: p.70, (48d))
- e. *¿**Qué** tu hermano quiere? 'What does your brother want?'
- f. *LAS ESPINACAS, **Pedro** trajo (y no las papas). (Zubizarreta 1998: p.103, (6a))
 'Pedro brought the spinach (and not the potatoes).'
- g. Pedro, LAS ESPINACAS trajo (y no las papas). (Zubizarreta 1998: p.103, (7a))
 'Pedro brought the spinach (and not the potatoes).'



適格と判断される (8d) に対応する構造 (8h) では、Wh 要素 (*qué*) が Wh/Q の内部先端部へ移動する。(8e) の非文性はどのように説明されるであろうか。既に述べたように、主語 CLLD 要素が CI の先端部に生起する派生は最小原理によって排除される (8i)。同じく (8e) に対応する構造 (8j) は、どのような要因によって排除されるのであろうか (構造 (8j) は最小原理によって排除されることはない)。Wh 要素を Focus 要素で置き換えた (8f) の非文性はどのように導出されるのであろうか。素性 [+wh] と同様、素性 [+focus] は Force (wh/Q) に付与される想定する。その場合、(8e) の非文性を説明する論法が (8f) の非文性を説明することになる。

通常、Wh 要素と Focus 要素の共起は排除される (9a-b)(9d)。 (9a-b) と (9d) に対応する派生構造 (9c) と (9g) はどのような要因によって排除されるのであろうか。その一方で、[por qué+Wh 要素] の語順は許容される。付加語 Wh 要素 (*por qué*) を除き、Wh 要素と Focus 要素が関係素性が付与されるゼロ範疇 (wh/Q (Force)) と隣接していない派生構造が排除される点に留意されたい。非文である構造 (9e) では、Wh 要素 (*qué*)、あるいは Focus 要素 (*JUAN*) がゼロ範疇 (wh-Q) と隣接していない。(9g) では、Focus 要素 (*A MARÍA*) が wh/Q と隣接していない。

(9) ^{OK}[*por qué* + FOCUS] (AグループとBグループ)

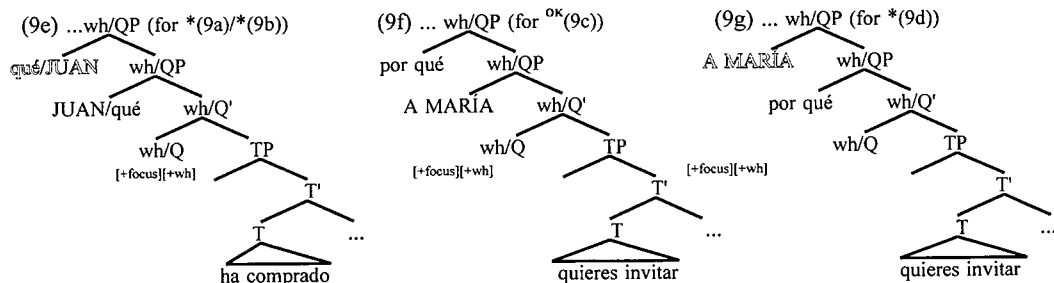
a. *¿*Qué* JUAN ha comprado? 'What has Juan bought?' (Escobar Álvarez 1995: p.51, (72c))

b. *¿JUAN *qué* ha comprado? 'What has Juan bought?' (Escobar Álvarez 1995: p.51, (72c'))

c. ¿*Por qué* A MARÍA quieres invitar (y no a Marta)? (Zubizarreta 1998: p.107, (19b))

'Why do you want to invite María (and not Marta)?'

d. *¿A MARÍA *por qué* quieres invitar (y no a Marta)? 'Why do you want to invite María (and not Marta)?'



ここで、Wh 要素、Focus 要素と CLLD 要素とそれぞれに関連するゼロ範疇との間の隣接に基づく仮説を想定する。Aグループにおいて、CLLD 要素は Force (wh/Q)の先端部、あるいは CI の先端部の一方に生起する。Bグループでは、CLLD 要素は Force (wh/Q)の先端部に生起する。(11) は、ゼロ範疇との隣接関係における可視性に関する仮説であり、一般的に要素 α は要素 β を見る。しかし、Aグループでは、付加語 Wh 要素 (*por qué*) は Focus 要素を見ない。Bグループでは、*por qué* は Focus 要素と主語 CLLD 要素を見ない (11a)。Aグループにおいて、CLLD 要素は他の CLLD 要素、Wh 要素と Focus 要素を見ない。Bグループにおいては、CLLD 要素は非主語 CLLD 要素と Focus 要素のみを見る (11b)。以下において、この仮説体系を箇々の異同に適用することにする。

(10) 基本仮説：

a. CLLD 要素は Force (wh/Q) の先端部と CI の先端部の一方に生起する (Aグループ)。

b. CLLD 要素は Force (wh/Q) の先端部に生起する (Bグループ)。

c. Wh Movement, Focus Movement と CLLD の適用を受ける要素は、関係するゼロ範疇 (Force (wh/Q), CI) との隣接 (Adjacency) を要求する。

(11) 可視性仮説 (ゼロ範疇 (Force (wh/Q)と CI) との隣接に関して)：

Parameterization: [\pm][\mp] の下位選択 → Aグループ； [\pm][\mp] の上位選択 → Bグループ

a. Wh 要素と Focus 要素は他の要素 (CLLD 要素, Wh 要素, Focus 要素) を見る。

但し、付加語 Wh 要素 (*por qué*) は Focus 要素 [\pm](と主語 CLLD 要素) を見ない。

b. CLLD 要素は、 [\pm](非主語 CLLD 要素と Focus 要素を除く) 他の要素 (CLLD 要素, Wh 要素, Focus 要素) を見ない。

2.1 適用例－1：(9) の用例

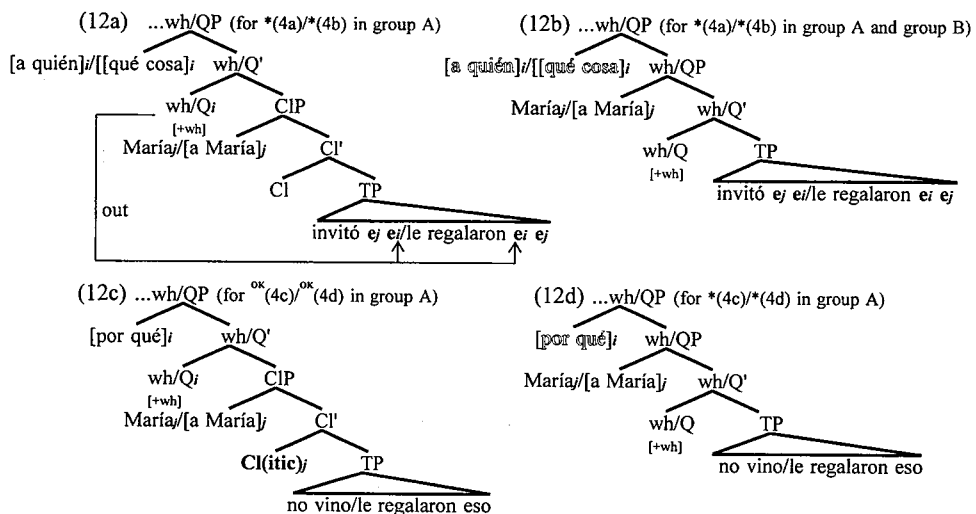
素性 [+wh] と素性 [+focus] が共に wh/Q に付与されるため、Wh 要素と Focus 要素が共に wh/Q の先端部へ移動する。非文と判断される (8a-b) の派生構造 (9e) において Wh 要素 (*qué*)、あるいは Focus 要素 (*JUAN*) がゼロ範疇である wh/Q に隣接しないため、この派生は非文と予測される (隣接条件に抵触する要素は中抜きで文字で表記する)。付加語 Wh 要素 (*por qué*) は Focus 要素を見ないため、(9c) の派生構造 (9f) において隣接条件に抵触する要素はない。(9d) の派生構造 (9g) において Focus 要素 (*A MARÍA*) は wh/Q と隣接しないため、この派生は不適格と予測される。

2.2 適用例－2：(4) の用例

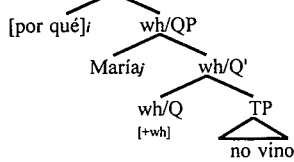
次に、(4) について考える (便宜上、(4) を再掲する)。(4a-b) に対応する構造 (12a-b) は Operator Binding、あるいは Wh 要素に対する隣接条件によって排除される。(8d) と (8e) もまた、同様の論法によって説明される。(4c-d) に対応する A グループの構造 (12c-d) の中で Operator Binding の要請を満たす (12c) から適確な派生が生成される。(4c) に対応する B グループの構造 (12e) は適確な派生を生成する。(4d) の構造 (12f) は *por qué* に対する隣接条件によって排除される。これは、B グループにおいて *por qué* が非主語 CLLD 要素を見るためである (11a)。A グループの (4e) に対応する構造 (12g-h) は Operator Binding、あるいは *por qué* に対する隣接条件によって排除される。

(4) まとめ ([A グループの判断 / B グループの判断])

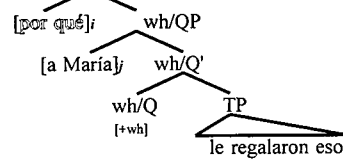
- a.[*/*] ¿A quién María invitó? ‘Whom did María invite?’
- b.[*/*] ¿Qué cosa a María le regalaron? ‘What did they give to María?’
- c.[^{OK}/^{OK}] ¿Por qué María no vino? ‘Why didn’t María come?’
- d.[^{OK}/*] ¿Por qué a María le regalaron eso? ‘Why did they give that to María?’
- e.[*^{OK}] ¿[Por qué] Juan dice [que beberá cerveza ei]?’ ‘Why does Juan say that he will drink beer?’



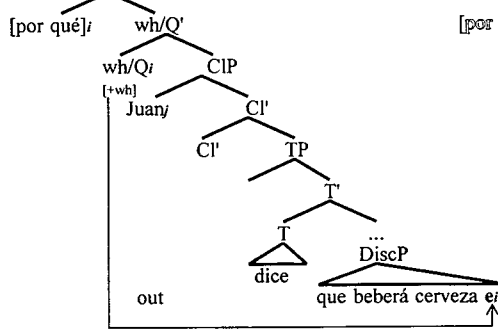
(12e) ...wh/QP (for ^{ok}(4c) in group B)



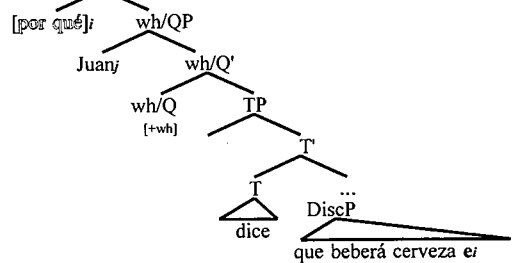
(12f) ...wh/QP (for *(4d) in group B)



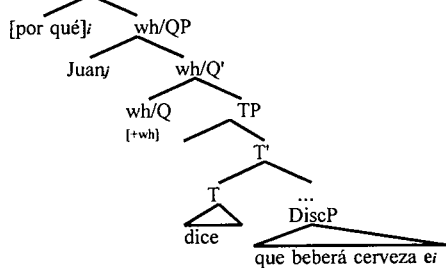
(12g) ...wh/QP (for *(4e) in group A)



(12h) ...wh/QP (for *(4e) in group A)



(12i) ...wh/QP (for ^{ok}(4e) in group B)



Bグループにおいて *por qué* がゼロ範疇との隣接に関して主語 CLLD 要素を見ないことから、(4e) の構造 (12i) は適格と予測される。同様に、[*por qué*+非主語 CLLD 要素] の語順は不適格と予測される。この予測は (13) にある Escobar Álvarez (p.c.) によって例証される。

(13) (Escobar Álvarez (p.c.): May 18, 2009) ²⁾

a. *¿*Por qué* a Luis lo conoce Juan? 'Why does Juan know Luis?'

b. *¿*Por qué* hoy lees ese diario? 'Why do you read that newspaper today?'

c. *¿[*Por qué*]_i a Juan le dicen [que beberán cerveza e_i]? 'Why do they say to Juan that they will drink beer?'

2.3 適用例-3 : (7d-e) と (8f, g) の用例

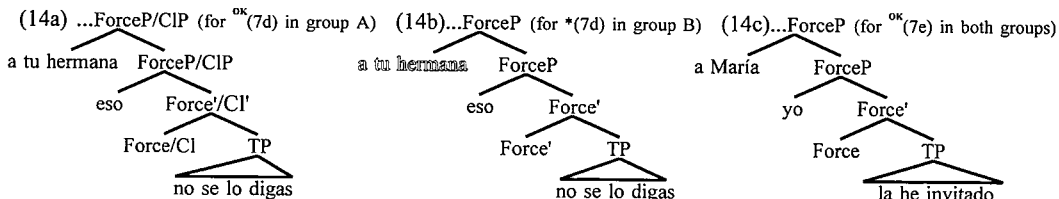
Aグループの (7a-b) はすべて適格と予測される。同様に、Aグループの用例としての (7d-e) もまた、適格と予測される (便宜上、(7d-e) を再掲する)。(11b) で規定されるように、Aグループにおいて CLLD 要素は他の要素を見ないため、隣接条件にも Operator Binding の制約にも違反しない。これは構造 (14a) によって示される。同じ (11b) によると、Bグループにおいて CLLD 要素は非主語 CLLD 要素と Focus 要素を見る。よって、(7d) の派生構造は隣接条件によって排除される (派生構造 (14b))

を参照されたい)。Bグループの用例としての(7e)は隣接条件の要請を満たす。

(7) ([Aグループの判断/Bグループの判断])³⁾

d. [^{OK}/*] *A tu hermana, eso, no se lo digas. 'Don't say that to your sister.'

e. [^{OK}/^{OK}] A María, yo la he invitado. 'María, I have invited.'

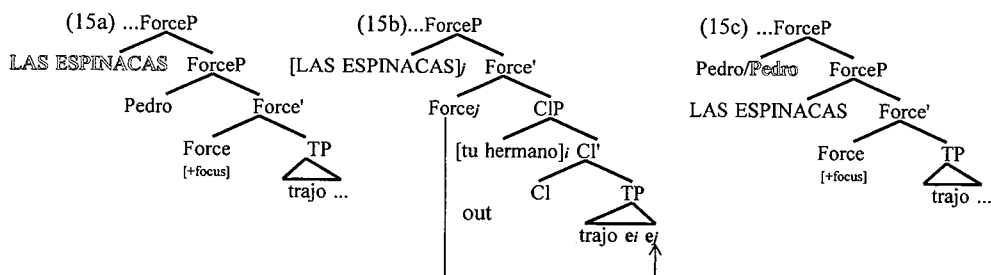


既に述べたように、Bグループにおいて CLLD 要素は非主語 CLLD 要素と Focus 要素を見る。Aグループにおいて CLLD 要素は他の要素を見ない。これにより、Aグループの用例としての(8f)と(8g)のそれぞれは非文と適格と予測される(便宜上、(8f)と(8g)を再掲する)。これは、それぞれの構造(15a-b)によって示される。Bグループの用例としての(8f)もまた、不適格と予測される。Bグループの用例としての(8g)は不適格と予測される。これは主語 CLLD 要素 (*Pedro*) が隣接条件に抵触するためである(15c)。この予測は(16)によって例証される。

(8) (Aグループ) (Zubizarreta 1998: p.103, (6a): p.103, (7sa))

f.*LAS ESPINACAS, Pedro trajo (y no las papas).

g. Pedro, LAS ESPINACAS trajo (y no las papas). 'Pedro brought the spinach (and not the potatoes).'



(16) (Bグループ) (Escobar Álvarez 1995: p.31, (23a): p.142, (55a))

a.*A JUAN Pedro conoce. 'It is Juan that Pedro knows.'

b.*A María, YO la he invitado, no Juan. 'It is me who has invited María, not Juan.'

3. 結び

Bグループに属す Escobar Álvarez によれば、付加語 Wh 要素 (*de qué* 'why', *cómo* 'how') は付加語 Wh 要素 (*por qué*) と同じ挙動を示す。つまり、この付加語に Focus 要素が後続する(9c)のような派

生は適格と予測される。(17a-b) の非文性はこの予測と衝突する。また、(13) の非文性を説明する論法は (17c-d) を不適格と予測する。しかしながら、(18d-e) は適格と判断される。

(17) (Escobar Álvarez 1995: p.68, (108a); p.68, (108b); p.137, (43c); (p.c.):May 18, 2009; Escobar Álvarez 1995:p.31, (23b'))

- a.*Luis no sabe **de qué** A JUAN conoce. 'Luis does not know why he knows JUAN.'
- b.*Pedro preguntó **cómo** UN COCHE se podía pagar, no el apartamento.
'Pedro wondered how one might pay A CAR, not the apartment.'
- c. Me pregunto **por qué** a María, Pedro no la saludó. 'I wonder why Pedro did not greet María.'
- d. Me pregunto **por qué** hoy lees ese diario. 'I wonder why you read that newspaper today.'
- e. Creo que A JUAN conoce Pedro. 'I think that Pedro knows JUAN.'

Escobar Álvarez (1995: p.68) は (17a-b) の非文性を埋め込み節における焦点化適用の不可に還元する。しかし、彼女自身が挙げる (17e) の用例から、この焦点化不可の論法を想定することはできない。⁴⁾

(17a-d) が引き起こす問題は可視性仮説の (11a) の部分を修正した (18) によって説明される。

(18) 可視性仮説 (ゼロ範疇 (Force (wh/Q)と CI) との隣接に関して) :⁵⁾

Parameterization: [±][≠] の下位選択 → A グループ ; [±][=] の上位選択 → B グループ

- a. Wh 要素と Focus 要素は他の要素 (CLLD 要素, Wh 要素, Focus 要素) を見る。但し、付加語 Wh 要素 (*por qué*) は、
 - (i) Focus 要素 [±](と主語 CLLD 要素) を見ない (Root Clause) ;
 - (ii) [=] (Focus 要素と) CLLD 要素を見ない (Nonroot Clause)。
- b. CLLD 要素は、 [±](非主語 CLLD 要素と Focus 要素を除く) 他の要素 (CLLD 要素, Wh 要素, Focus 要素) を見ない。

註

*) 本稿は日本ロマンス語学会第 47 回大会 (北海道大学 2009 年 5 月 31 日) での口頭発表を拡張したものである。本稿の匿名レフリーから論文構成上等の問題の指摘をいただいた。ここに、謝意を表する次第です。

- 1) 文法性判断の相違に基づき、話者グループ (A, B) が想定される。A グループには Zubizarreta, Ron, Martín などの研究者が属す。B グループには Escobar Álvarez などの研究者が属す。
- 2) Escobar Álvarez (p.c.): May 18, 2009) は (13b) に対応して付加語 (*hoy*) に Focus Stress が付与された (i) を適格と判断する。A グループに属す Martín (2003: (16a)) は (13b) を適格と判断する。

(i)¿Por qué HOY lees ese diario (y no mañana)?

'Why do you read that newspaper today (and not tomorrow)?'

- 3) 本稿の匿名レフリーは、以下の判断を下す 2 名の母国語話者(スペイン人, ベルー人) の存在を指摘する。本稿では、(ib) に対する判断 (*) が類似形態 (a+DP) の連続がもたらす解釈上の混乱に起因すると考える。(ib) に対する判断が解釈上の混乱でなく何らかの統語論的な要因によるとすれば、第 3 の話者グループ

が存在することになる。これに関しては、稿を改めて検討する。

- (i) a. A tu hermana, eso, no se lo digas. (=7a) 'Don't say that to your sister.'
b.*A Irene a él/A él a Irene se la presentaron ... 'They introduced Irene to him...'

4) Escobar Álvarez (1995) の論法は、(17c) を適格と判断する意味で問題を内包するものである。

5) (18a) は A グループの用例としての (17a-d) のすべてを適格と予測する。(i) で観察される関係節内における Focalization に関する異同は (ii) によって説明できるであろう。

(i) (Escobar Álvarez 1995: p.72, (119a); González Rodríguez 2008: p.63, (66a))

a.*La comunicación que LUISA envió a Tarragona, no Carlos, por fin llegó.

'The abstract that LUISA sent to Tarragona, not Carlos, finally arrived.'

b.ok* Aquel es el dependiente al que MANZANAS compró María.

'That is the subordinate for whom María bought APPLES.'

(ii) a. 関係詞 Wh 要素は素性 [+focus] が付与される Force の先端部を経由する

b. [±](関係詞 Wh 要素は Focus 要素を見る (Force との隣接に関して)。

参考文献

Escobar Álvarez, María de los Ángeles (1995) *Lefthand Satellites in Spanish*, OTS-Publications, Research Institute for Language and Speech, Utrecht University.

Escobar, Linda (= Álvarez) (1997) "Clitic Left Dislocation and other Relatives," *Materials on Left Dislocation*, ed. by Elena Anagnostopoulou, Henk van Riemsdijk, and Frans Zwarts, 233-273, John Benjamins Publishing Company, Amsterdam/Philadelphia.

Fernández Soriano, Olga (1993) "Sobre el orden de palabras en español," *DICENDA, Cuadernos de Filología Hispánica* 11, 113-152.

González Rodríguez, Raquel (2008) *La polaridad positiva en español*, Ph.D. dissertation, Complutense University of Madrid.

Martín, Juan (2003) "Against a Uniform Wh-Landing Site in Spanish," *Theory, Practice, and Acquisition: Papers from the 6th Hispanic Linguistic Symposium and the 5th Conference on the Acquisition of Spanish and Portuguese*, ed. by Paula Kempchinsky and Carlos-Eduardo Piñeros, Cascadilla, Somerville, MA.

Olarrea, Antxon (1996) *Pre and Postverbal Subject Positions in Spanish: A Minimalist Account*, Ph.D. dissertation, University of Washington.

Ron, María Pilar (1998) *The Position of the Subject in Spanish and Clausal Structure: Evidence from Dialectal Variation*, Ph.D. dissertation, Northwestern University.

Zubizarreta, María Luisa (1998) *Prosody, Focus, and Word Order*, MIT Press, Cambridge, Massachusetts.

Zubizarreta, María Luisa (2001) "The Constraint on Preverbal Subjects in Romance Interrogatives," *Subject Inversion in Romance and the Theory of Universal Grammar*, ed. by Aafke Hulk and Jean-Yves Pollock, 183-204, Oxford University Press, Oxford/New York.